

〔 2 〕 高柳記念奨励賞（ 2 件）

し みず ひろ き

清水宏紀氏（日本ビクター株式会社 取締役 ビデオ事業本部長）

“VHSビデオの新技术（W-VHS, D-VHSなど）に関する業績”

日本ビクター(株)は1976年にVHSフォーマットを開発して以来映像メディアの発展と時代に即応して変化・拡大する消費者ニーズに対応し、数多くの新技术を開発し、ビデオ産業の育成に貢献してきたが、清水宏紀を代表とするビデオ研究開発・事業化グループはこれを更に発展させ、将来を見据えた技術開発を積極的に推進。一昨年、昨年には高精細画像、デジタル画像等マルチメディア時代にも対応したVHSビデオ技術を新たに開発し、地球規模に拡大したVHSビデオフォーマット開発メーカーとして世界に向かって21世紀のビデオ産業の方向を明示した。

以下にその業績の概要を示す。

- (1) 独自の2トラックパラレル記録方式やテンポラルエンファシスシステムの開発により、世界で初めてアナログベースバンド記録の家庭用HDVTRとしてW-VHSフォーマットを開発し、ハイビジョン映像文化の普及に貢献した。
- (2) VHSとの互換性を維持しながら、デジタル映像、データ等のデジタルビットストリーム記録が可能なD-VHSフォーマットを開発。マルチメディア時代に於ける家庭用大容量低価格のデータストレージとしてVHSビデオの用途展開を画期的に拡大した。
- (3) 高速サーチやスローモーション再生時に記録トラックの軌跡に合わせて回転ドラム機構全体を傾斜させ、再生ヘッドによるトラック跨ぎノイズのない変速再生を可能にするダイナミックドラムシステムを家庭用のコストで実現。VHSビデオの新たな用途展開に道を拓いた。

以上のように清水宏紀氏を代表とするビデオ研究開発・事業化グループが21世紀に向かっての新たな技術開発としてW-VHS、D-VHSの開発に成功し、現存するアナログインフラストラクチャーから今後のデジタルインフラストラクチャーに向かって切れ目のない架け橋ができたことは世界の映像情報文化に広く貢献するものと高く評価される。